知恵の樹
No. 253 2021.3.30
町田の図書館活動をすすめる会
https://machida-library.jimdo.com
代表：手嶋　孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

3回の公文書公開請求で分かった真実

手嶋 孝典 （町田の図書館活動をすすめる会・代表）

はじめに

2020年8月11日付で、1. 町田市立図書館のコロナ禍（COVID-19）に伴う全館休館に関して、2. 町田市立図書館ホームページの閉鎖及び再開に関して、3. 「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して、4. 町田市立鶴川駅前図書館への指定管理者制度導入に関して、情報公開請求した。当方が意図したのは、それがどのような理由で行われたか、あるいはどのような手順を踏んで行われたかを明らかにすることであった。しかし、公開された文書は、行政の意思決定とは無関係な単なる手続き上の起案書であったり、公文書が不存在とされるなど、意図した情報を入手することはできなかった。

そこで、同年12月7日付で、4. を除き（公文書非公開決定通知書が提示されたため）、3. を① 「今後の町田市立図書館のあり方見直し方針」（「今後の町田市立図書館のあり方について」が正しいが、請求の際の誤表記）を町田市立図書館協議会ではなく、町田市生涯学習審議会に諮問することと決定した経緯が分かる会議録、起案書、②2018年10月22日の生涯学習審議会に「資料 4－①」として出された「（案）町田市立図書館のあり方見直しについて」が策定された経緯が分かる会議録、起案書の2つに分けて、再度情報公開請求した。

ところが、公開されたのは、いずれも8月25日に開示されたものと全く同じものだった。8月25日に開示されたものでは意味をなさないから、理由を示して再請求しているのに、なぜ同じ文書を開示したのか、全く理解に苦しむ。

改めて、本年3月1日に同じ4項目（1.、2.、3.-①、3.-②）について、情報公開請求の再々申請を行い、文書が存在しない場合は、「公文書不存在決定通知書」の発給を求めた。その結果は、4件とも実質的に文書が不存在であることが判明した。以下、項目別に何が問題なのかを順次解説したい。

1. 町田市立図書館のコロナ禍（COVID-19）に伴う全館休館に関して

昨年3月2日からの休館を決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切を請求したが、不存在であることが判明した。

町田市立図書館運営規則は、第3条第2項で「館長は、特別の事情があるときは、教育長の承認を得て前項に規定する開館時間及び休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。」と規定している。

しかし、図書館長が昨年3月2日からの休館決定に教育機関の長としてどこまで主体的に関わっていたかは不明である。そのような手続きを踏んだ起案書はなく、図書館を含む生涯学習部の施設の休館を決定した文書も存在しないということである。図書館の休館がどこで決定されたのかも分からないのである。

2. 町田市立図書館ホームページの閉鎖及び再開に関して

ホームページの閉鎖という信じ難い、図書館としての自殺行為にもかかわらず、公開された起案書には、図書館ホームページを閉鎖する理由が一切触れられていないので、意思決定のプロセスがまったく分からない。同様に、ホームページの再開についても、その理由は触れられていない。

図書館ホームページの閉鎖及び再開に関しては、それを決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書が存在しないのである。

3．-①「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して

「今後の町田市立図書館のあり方見直し方針」（「今後の町田市立図書館のあり方について」が正しいが、請求の際の誤表記）を町田市立図書館協議会ではなく、町田市生涯学習審議会に諮問することと決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書は存在しない。

図書館協議会は、図書館法第 14 条第 2 項で、「図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする」と規定している（下線は引用者）。

つまり、「図書館の運営に関し」ては、図書館協議会に諮問することが図書館法に依って定められているのである。しかも、町田市立図書館協議会には、町田市教育委員会が委嘱した「学識経験を有する者」、すなわち図書館の専門家が存在するのであり、それを差し置いて町田市生涯学習審議会に諮問することは許されるものではない。

3．-②「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して

「（案）町田市立図書館のあり方見直しについて」は、「生涯学習審議会事務局である生涯学習総務課が諮問内容を補強するために作成した資料で、図書館では作成していないため」ということなので、生涯学習総務課には存在するはずである。にもかかわらず、「（案）町田市立図書館のあり方見直しについて」が策定された経緯が分かる会議録、起案書などの文書は存在しないことが判明した。

既に開示された文書は、「今後の町田市立図書館のあり方について（諮問）」と題され、諮問事項として「1．図書館の目指すべき姿について／2．再編をすすめる上での留意点について」の 2 点があるのみである。2019年2月に教育委員会が審議・決定した「町田市立図書館のあり方見直し方針」の核心部分である「再編の必要性と方向性」「効率的・効果的なサービスの方向性」は、巧妙に諮問事項から除外されているのである。

従って、「町田市立図書館のあり方見直し方針」は、町田市立図書館協議会はおろか、生涯学習審議会にも諮問されていないことになる。

まとめ

以上のことから、図書館の重要な政策を決定する手続きが恣意的であり、意思決定した文書さえ存在しないという重大な瑕疵があることが明白になった。

今後の対応については、行政不服審査等を検討しており、皆様の知恵を拝借しながら、引き続き図書館行政の不当性について追及を続けたい。

「鶴川図書館再編後の姿を考える」ワークショップ第 2 回開催

鈴木 真佐世　（鶴川図書館大好き！の会）

3 月 13 日（土）、市主催のワークショップ第 2 回が開催されたので報告します（第 1 回ワークショップについては、前号にて報告済み）。

今回は、参加者が少し減ったこともあり、全体を4つに分け、鶴川図書館大好きの会の関係の人は仲間でしっかりと話し合い、意見をまとめて書いてほしいということだそうで、1 つのチームになりました。（4 つの中の「チーム 1」）

鶴川図書館担当の係長の挨拶後、前回の振り返りをファシリテーターが行い、ワークショップになりました。

今回はテーマが前回よりも具体的になり、

1. 鶴川図書館でどんなことができるといいか
2. 1.のことができるための具体的な方法
3. 活動を支える地域の関係者、人材
4. 鶴川図書館のアピールポイントとしたい点

の 4 つのテーマについて、各自がまず 20 分くらいかけて考えて個人用紙に書き、一つずつのテーマについてチームで聞きあい、話し合った内容を大きい紙に書き出し、最後に発表をしました。図書館側は館長、副館長、鶴川図書館担当の係長、鶴川駅前図書館担当の係長、企画・地域支援係等が出席していましたが、前回と違って話し合いのチームには入りませんでした。

記入用紙の一番上にそれぞれにチームが思い描くイメージを図書館の名称に託しました。

チーム 1:生きる力をはぐくむ図書館
チーム 2:幸せになれる図書館
チーム 3:つるかわ文化図書館
チーム4:青空図書館

鶴川図書館のある商店街はUR都市機構(以下UR)による建て替えを計画していますが、各店によって建て替えに対するスタンスが違い、未だに一致点が見つからず、いつ建て替えが行われるかわかりません。そんな中で今後の鶴川図書館に対して上記の 4 つのポイントについて考え、話し合ったので、私たちのチームは、現在の図書館の建物でできることを考え合いましたが、チームによって建て替え後に望むことを書いたチームもありました。

4 つのテーマ毎に出たことを以下にまとめてみました。

＜1. 鶴川図書館でどんなことができるといいか＞

①地域の知・文化と交流の拠点とする。具体的には、
・単独或いはコラボイベント(読書会、上映会、講演会、ミニ演劇、おはなし会、古本市など)
・三水スマイル*のような交流イベント
(*鶴川地区協議会主催で毎月第 3 水曜日にポプリホールで開催される文化・歴史などに関する講座、乳幼児の遊び場その他のイベント)
・市内の公共施設が持っている様々な情報源の利用
・インターネット環境の整備、タブレット貸し

②地域の子どもたちと本を結ぶ拠点とする(家庭の子供たちだけでなく、小中学校の学校図書館、ボランティアとの連携を深める)。子供の意見も聞く。放課後の子どもの居場所となる。

③同じ悩みの人が読書会などを通じてつながることができたり、本、本以外の様々な情報・人の紹介。

④もっと新しい本を増やす。

⑤ゆったりと読めたり勉強したりできる空間がある。

⑥静かにしなくていい図書館をつくる。

＜2. 1.のことができるための具体的方法＞

①図書館がボランティアなどともっと密に連携。そのためにはもっと頻繁に集まりを持ち、話し合ったり、勉強する機会を作る必要がある。

②限られた人員とコストの中で、司書には選書、レファレンス、地域の学校や幼保育園などとの連携、図書館の根幹につながる仕事に力を注いでもらい、窓口にはパートの人を雇う。

③図書館に来たら刺激をもらえるような工夫(例えばPOPを中高生に作ってもらったり、見てもらう)。

④地域のつながりコンシェルジュ常駐。

⑤図書に関しては、購入だけでなく、寄贈も積極的に募集しチェックして受け入れる。

⑥図書館の前のスペースにテーブルと椅子を置いて、本を読んだり飲食ができるようにする。

⑦図書館の 2 階の空き室を利用して、1.－①に書いたような＋αの活動をする。

⑧広場を活用した青空図書館(商店街の真ん中の広場を活用。いすや机を用意して、野外を上手に使う。イベントもできるスペースを確保。商店街と一体で使える工夫。多世代交流の場とする)。

＜3.活動を支える地域の関係者、人材＞

○各チームで挙げた関係者を羅列

運営協議会のような組織(地域で子どもや文化活動にかかわっている人、図書指導員、地区協議会など)／自治会／名店会／大学生／地域住民／民間事業者／UR(再編成、スペース作り)／市(司書と運営委託費確保)／小・中学生(イベント参加)／大学の先生／作家や翻訳家(イベント企画の際)／空き室の利用の際に管理するためのボランティア。

窓口業務を行うパートの人材／地域の歴史・人脈にくわしい人・団体／近隣の社会福祉法人／高齢者支援センターなど／つるっこのスタッフ／場づくりの専門家、近くの公共施設である自由民権資料館の人／オンラインイベントを手伝ってくれる人／寄付をしてくれる人／ボランティア。

＜4.鶴川図書館のアピールポイントとしたい点＞

・ここに行けば児童書は色々ある
・図書館の人が親切にいろいろ教えてくれる
・子どもの自主性が伸びる図書館
・子どもがのびのびといられる図書館
・歩いて行けるところに人や知と触れ合って、成長の実感と幸福感を得られる図書館
・ここに来れば、誰かに会える！つながれる！みんなの縁側
・青空図書館(野外空間)
・ゆったりとでもにぎやかにでも利用できる
・本来目的外の人も取り込める

＜5.その他＞

・鶴川駅前図書館と紛らわしいので、ネーミングを鶴川

図書館から鶴川団地図書館とする

以上が各チームの発表した内容です。今までの図書館とはかけ離れた提案や、実現可能かどうかわからない提案もありますが、市はこれをたたき台として、来年度は、いろいろな団体の代表が集まっての話し合いの場を作るとのことです。

今回も、鶴川図書館を市立図書館として存続させるかどうかを市が明確にしない状況でのワークショップでした。けれども、記入用紙には、現在提供している機能として、図書の閲覧、貸出・返却、予約・受取、レファレンスが挙げられていて、今後残したい機能に丸を付け、さらに充実してほしい機能があれば書くようになっていました。どのチームもすべての機能に丸を付けており（さらに私たちのチームは司書の存在必須、もっと新しい本をと記入）、市は、この結果を無視することはできないでしょうし、むしろこれらの機能は残そうとしているようにも取れます。そうだとすると、1年前よりも前進したのではないでしょうか。そう信じたいです。

鶴川図書館大好き！の会としては、4 月 29 日（木・祝）2 時から鶴川市民センターで、独自にワークショップを開催し、市が市民協働の市立図書館としての存続を認めた場合には、次のステップとしてどのような図書館として、どのように市民協働を進めたらいいかを具体的に考える場としたいと計画しています。　（会員）

住民による
「公立図書館を市民参画によって支えるためのワークショップ」

日時：2021 年 4 月 29 日（木）
午後 2 時～4 時 30 分
場所：鶴川市民センター2F　第2会議室
定員：25 名。コロナ対策のために事前申込制

主催：鶴川図書館大好き！の会
お問い合わせ：鶴川図書館大好き！の会事務局
鈴木真佐世　☎090-1863-5174
✉suzumasa3964@gmail.com

こんな本み～つけた！（第25回）

『人新世の「資本論」』

斎藤　幸平　著　　集英社（新書）　2020年　　紹介：駒田　和幸

斎藤くん、こんにちは。

『人新世の「資本論」』をたいへん興味深く読みました。少しだけ感想をお伝えしようと拙い筆をとりました。ただ、私は専門家ではなく、市井の民にしかすぎません。そのあたりを含んで読んでみてください。

それにしてもたいへんな売れ行きで、本屋さんでも平積みされています。しかも図書館ではなんと 100 人以上の方が予約待ちをしています。硬派の本ではなかなか見られないことで、著者冥利につきるのではとお喜びいたします。しかも、本のカバーには、「斎藤はピケティを超えた」「常識を破る、衝撃の書」などと著名な方々の賛辞の嵐ですね。

ところで、近年、MEGA と呼ばれる新しい『マルクス・エンゲルス全集』が多くの国の研究者が参加して刊行中です。これまでの全集には含まれていなかったマルクスの研究ノートや書簡などをすべて網羅し、全100巻になるという壮大なスケールの事業です。きみもそこに参加され、膨大な資料を読み込まれました。その結果、大きな発見をされました。それはマルクスが『資本論』第１巻を刊行した（1867 年）あと、根本的ともいえる思想の大転換をしたということで、この本でいいたかったことはまさにその中身ですね。その要点を思い切って要約すると、次のようになるかな。

地球はいまや「人新世」という新しい地質年代に突入している。それは人類の活動が地球の隅々まで覆いつくした年代で、その結果、気候をはじめ地球環境の破壊が極点にまで達し、早晩、生存そのものが危うくな

る。そうなる前に、「成長」というウイルスに取りつかれた資本主義システムをやめて、「脱成長コミュニズム」に移行しなければならない。「脱成長コミュニズム」のキーワードは「コモン」。それは水や電力等々、社会的に人びとに共有され、管理されるべき富のことで、宇沢弘文のことばを使えば「社会的共通資本」。「コモン」を市民自ら管理する「市民営化」を進め、さらにその領域をどんどん広げ、ついには地球をも「コモン」として管理していくことで、資本主義を廃絶していける。「グローバル・サウスから学ぶ」バルセロナの取り組みは、その先駆的な例である。ちょっと乱暴だけど、こんなところかな。なかなかにラジカルです。

ここで、この本がここまで話題となった背景を考えてみます。

1990年代、反成長・反生産力（清貧）といった考え方と多分に結びついたエコロジズムや脱労働組合の動きが広まる中、女性やマイノリティなど多様な人びととの共生を求める市民運動がさかんとなっていきました。ただ、こうした考え方や運動は、どうも市場原理・「小さな政府」論に対してうまく切り返すことができず、やがて飲み込まれていきました。私自身もその苦い思いがあります。かくして資本主義が見境のないほど猛威をふるい、格差と貧困、人びとの生存が根本から脅かされるという現実がむき出しになりました。それと同時に、気候変動・異常気象も日々実感されるようになってきました。

こうした時代変化にマルクスの晩年の思想が的確な処方箋を示している、ときみは主張しているわけで、それがまさにこの本の目玉ですね。

本書では取り上げられていませんが、きみはNHKのEテレの「100分de名著」という番組に出演されました（1月に4回シリーズで放送）。そこで、図書館を「コモン」の1つにあげましたね。そのあたり、図書館関係者の共感をよんだと思います。余談ですが、あの浪江虔は、100 年近くも前に「本は公共物である」と考えていました。

最後にちょっと苦言。「コモン」の考え方には私も共感を覚えるけど、勇み足が散見されます。

「SDGs は大衆のアヘンである！」これが巻頭の文です。続けて「SDGs はアリバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない」と切り捨てます。だからエコバックを買ったり、マイボトルを持参したりするのは、「見せかけだけの対策」で「無意味」。「その善意は有害でさえある」。なぜこんなに「挑発的」になるのでしょうか。

斎藤くん、きみは 3.5%の人が非暴力の方法で立ち上がれば変革できるといいますが、でも 96.5%の人を敵に回せば勝ち目はありません。

安田菜津紀さんという、きみと同じ 1987 年生まれのフォトジャーナリストがいます。彼女は SDGs の「住み続けられるまちづくりを」という目標について、福島の一人一人の声をていねいに聞き取りながら新たな中身を盛り込めないかと考えています。そこには「99%の人たち」といった大きな括りではない地道な思考が息づいています。彼女から学べることは多々あります。

書き洩らしたことがたくさんあります。また、お便りします。（会員）

＊町田市立図書館は 5 冊所蔵していますが、予約は 126 件あります（3 月 29 日現在）。

伊藤忠記念財団子ども文庫功労賞を受賞して

志村 妙子 （柿の木文庫）

2020年度の伊藤忠記念財団子ども文庫功労賞受賞決定のお知らせを財団から 12 月にいただきましたが、「私が受賞！？」と、とても信じられませんでしたし、どういう賞なのかもよくわかっていませんでした。全国の子ども文庫について調査研究していらっしゃる汐﨑順子さんがご推薦くださり、文庫の者たちが改めて推薦状なるものを財団に送ったようなのです。2 月になって汐﨑さんから「受賞おめでとう」のカードと『読書推進運動』という機関紙の中の私の受賞を知らせたページのコピーを同封した封書をいただき、初めて受賞の事実を実感し、面映ゆさで胸がいっぱいになりました。その記事には、功労賞とは「子ども文庫を永年（20 年以上）にわたり運営してきた個人で、子どもの読書啓発活動に貢献してきた方を顕彰する賞です。」と書かれていました。

そして、つい先日、財団から表彰状と記念品が贈られてきて、文庫の仲間に見てもらうことができました。

一昨年、2019 年が文庫の 35 周年でした。記念の祭

りを文庫でして、普段子連れでないと訪れることのない地域の方にも足を運んでいただき、文庫のことをもっと知っていただきたいというメンバーたちの願いで同年9月に「柿の木文庫 35 周年記念文庫まつり」が開かれました。97 歳を過ぎた私は、旧メンバーであるお客様と共に隠居気分で楽しませてもらいました。そして、その後作成された記念の小冊子に私は次のように書きました。「子どもの未来を思い、心通うたくさんの仲間に囲まれ、98 歳になろうとしている私、この幸せに甘んじて、もう少し生きていたいと思わせてくれた嬉しい嬉しい文庫まつりでした。ありがとう、ありがとう。」

改めて、柿の木文庫誕生のきっかけは何だったのだろう？と思ったとき、すぐに公民館のことが浮かびました。振り返りますと、教職の定年を間近に控えた頃の私は、鶴川第四小学校で低学年の担任を繰り返していましたので、毎朝1時間目の授業の前に鞄の中から絵本を取り出して読み聞かせを続けていました。目を輝かせ身を乗り出して聞いてくれた子どもたちの姿が今でも浮かんできます。その頃、家庭の状況は、娘二人は結婚して独立し、義父母も夫も亡くなって、独居生活でした。退職と同時に公民館に通い始めました。ほとんど毎日のように･･･ことぶき大学、市民平和講座、婦人学級など。婦人学級では、「平塚らいてう」から「市川房枝」まで面白くて何年も続きました。市民平和講座では、「昭和史の学び直し」、「原爆」と「平和運動」。欠席することなく通い、公民館主催の「語りと読み聞かせのための講座」に出会ったのです。申し込みが多くて1回目は駄目、翌年の2回目に参加できました。「語り？」「お話を覚えて語りかける？」60 歳を過ぎている私に続けられるか？と一瞬思いましたが、講座終了の時には大きく心が動いていました。

1984 年4月、受講生による「まちだ語り手の会」が誕生し、鶴川地域で前年度受講した、講座仲間の本間さん、鈴木さんに背中を押され、家の一室を開放し、「柿の木文庫」が動き出しました。1984 年6月、絵本・児童書 500 冊足らず、仲間3人での小さな小さな家庭文庫でした。

その後、社会の変化は大きく、子どもたちの日常が忙しくなったこともあり、文庫をどう運営していったらいいのかをみんなでよく話し合い、学習・工夫しました。学童保育の子どもたちの参加で、来る子どもたちも増え、メンバーも多くなってきた頃、この文庫活動がずっと続けられることを願い、庭の奥にある農機具小屋を建て替えることを決心しました。新築の「柿の木文庫」に引っ越したのは 1998 年3月6日でした。この頃にメンバーで作った『柿の木文庫 15 年のあゆみ』は私の宝物です。活動も活発になり、鶴川に太い根を下ろしたと確信しました。

伊藤忠記念財団からは、2005 年に 100 冊の絵本贈呈、2010 年には子どもの本購入費助成を受け、また、2008 年に文部科学大臣より「子ども読書活動優秀実践団体」として町田市立図書館と共に表彰されたことも思い出深いことです。

これから子供を取り巻く世界がどうなるのか、また、新型コロナウイルス感染拡大についても不安でたまりません。文庫では、人数を制限して予約制で活動を行っていますが、学童の子どもたちは来ることがかなわない状態です。一日も早く終息して、文庫から子どもの声がいっぱい聞こえてくる日を待ち望んでおります。

コロナ禍の中で「第９回まちだ図書館まつり」と「中央図書館３０周年」

増山 正子 （第9回図書館まつり実行委員長）

中央図書館 20 周年記念のフェスタを機に、毎年開催されてきた官民協働図書館まつりは、2019 年度9回目を開く予定でした。ところが、当会報 243 号に、「9回まつり」開催（2020/3/26～30）のお知らせと、「第 10 回まつり」は 30 周年事業の中で行われるだろうというお知らせを載せ、発行した（2020/2/25 発行）その翌日、新型コロナ感染問題により、図書館での全てのイベントが 2/27～3/31 中止となり、開催間近の図書館まつり

は、展示をも含め全て中止という事態に陥りました。その後も、図書館は、緊急事態宣言により臨時休館となり、一部制限付きで全館が開館となったのは、6/9 の事。集会室の貸し出しが可能になったのは 7/1 からという、図書館との話し合いが出来ないまま長い期間が過ぎました。何度か、今後の事も含め話し合いを持ちたいと、まつり事務局である児童担当職員に申し入れていましたが、9 月に入って、やっとその場を持つことが出来ました。

■第 9 回最終実行委員会

於:9/24(14:00～16:00)中央図書館 6Fホール

出席者:実行委員会(17 団体)の委員 11 名(参加希望者)と図書館職員 9 名(中嶋館長・竹川副館長・本郷担当課長、山田担当係長・岡田・飯野〈児童〉、中川係長・白井・小川〈企画・地域支援係〉)

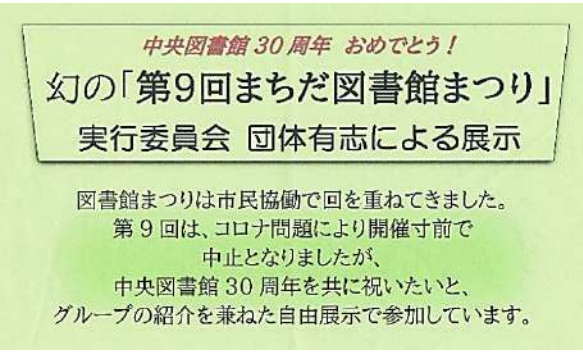
30 周年記念事業と第 10 回まつりについて

2019 年度のまつりの中止についての経過報告、並びに 30 周年記念事業に関しては、現時点で、講演会を 2 つ開催し、まつりのような多人数での集会は中止するとの説明があった。

【質疑応答】

実行委員からは、「30 周年の展示に第 9 回まつりの展示も一緒に・・・」「第 9 回のイベントの中から、一つでも 30 周年事業に組み込んで欲しい・・・」等々、熱心な意見が出された。

図書館側からは、「10 回まつりの開催は、新たに発足した企画・地域支援係を中心とした体制での開催を予定していたが、諸般の事情で中止せざるを得ない。図書館まつりは長年続いている重要な事業なので繋げていくことに意義がある。今後も市民の皆さんと議論を重ねながら、図書館まつりの有り方を検討して、充分に安全が確保できる状況で行いたいと考えている。



ケース内に展示した説明チラシ

＊その後、実行委員の皆さんが非常に熱心なので、と、展示(左下説明写真参照)と、第 9 回のプログラムの中から『疎開した 40 万冊の図書』の上映会が実行委員会主催として 30 周年記念事業の中に組み込まれた。中嶋図書館長に上映依頼状を提出、児童担当係長はじめ企画・地域支援係長のお骨折りで、2 月の映画特集「中央図書館 30 周年記念『図書館』」の一つとして 19 日(金)上映会を催すことができたのである。(会員)

最善の努力に感謝

久保 礼子　(第9回図書館まつり副実行委員長)

「第9回まちだ図書館まつりで、何を？」とすすめる会の企画を検討する中で、「ぜひ、ドキュメンタリー映画『疎開した 40 万冊の図書』を多くの市民に見てもらいたい、費用負担も協力するので」との上映会の提案が増山さんからなされ、「図書館まつりでの上映を皮切りに、より多くの場で見てもらおう」と、すすめる会はフィルムを購入。思いがけず、コロナ禍で図書館まつりは中止となりましたが、市民協働で回を重ねてきた図書館まつりをこのような困難な状況の中でどのように…と、図書館まつり実行委員長の増山さんは、最善の努力をされたと思います。図書館の担当者との話し合いを重ねて『疎開した 40 万冊の図書』の上映会準備を進めたという経緯があります。

上映に先立って、中央図書館では図書館や本をテーマにした関連本を集めてブックトラックに並べて5Fで映画上映のお知らせと書籍の紹介に注力。上映当日は、まつり担当で児童担当係長の山田さんが上映にあたっての経緯を来場の皆さんに伝えてくださり、続いて、まつり実行委員長の増山さんが図書館まつりについて語り、図書館と共にある市民の思いを伝えてくれました。コロナ禍でこのように協働が実現できたことは何よりと意義深く思われました。

映画では、社会における図書館の役割が様々な人の言葉で語られ、失われる文化を守らなければと力を注ぐ人たちの姿が数々紹介されました。いつか又、この映画を図書館まつりで上映できることを願っている私です。図書館まつりの「ビブリオバトル」で、かつて“古典”を熱く語った高校生がいました。若い人たちとこの映画の感想を語り合ってみたいものです。

(野津田・雑木林の会)

ひろば

例会 3/2（火）　報告

・16:30～　印刷・発送作業等:
　清水・鈴木・手嶋・丸岡・守谷
・18:00～19:00　中央図書館・中集会室
出席:石井・清水・鈴木(真)・鈴木(優)・手嶋・野口・守谷・山口

議題

1. 会報について

次号(№253):巻頭言(未定)⇒3 回の情報公開請求について(手嶋)、「こんな本見～つけた！」第 25 回(『人新世の「資本論」』、駒田)、伊藤忠記念財団子ども文庫功労賞を志村妙子さんが受賞した記事(未定)⇒志村さん、3/20 第 2 回ワークショップ報告(鈴木)、「疎開した 40 万冊の図書」2/19(金)上映会報告(増山・久保さん)

2. 今年度の活動計画について

映画会:ドキュメンタリー映画「疎開した 40 万冊の図書」の上映会＋講演会

日時:4 月 4 日(日)午後 1 時 50 分～5 時 10 分

プログラム: ①挨拶　なぜ鶴川の地で上映会を開くかの説明を含める。→別途、鈴木(真)

②上映 「疎開した 40 万冊の図書」(102 分)

③講演　金高謙二監督　④質疑・応答、感想

会場:鶴川市民センター　2F ホール

共催:鶴川図書館大好き！の会　定員:150 名

資料費:500 円(講演を加えたため)

「疎開した四〇万冊の図書」関連本リスト(増補版)を資料として印刷する。「鶴川図書館の問題を考える資料」、「図書館に指定管理者制度 Q&A」などの資料も印刷・配布する。前川喜平氏講演会記録集を販売。

申し込み:(susumerukai1984@gmail.com)を原則とし、それらが利用できない場合は電話(手嶋 080-4804-0392 または鈴木 090-1863-5174)

チラシ:鈴木(真)、水越を中心に作成した。

教育委員会の後援を申請中⇒後援決定。⇒後援決定後にトラブル。

図書館見学会:茨城県守谷市中央図書館の見学と守谷市の図書館を考える会との交流。→継続

3.「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

鶴川図書館大好き！の会の取り組み:2021 年は鶴川図書館存続につなげるべく活動する。

①第 6 回図書館カフェ in 鶴川　1/31(日)午後 2 時～鶴川市民センター　実施済み
「知恵の樹」№252 に報告掲載。

②鶴川図書館再編後の姿を考えるワークショップ(市主催)　2 月 20 日(土)、3 月 13 日(土)⇒2/20 実施済み 「知恵の樹」№252 に報告掲載。

「すすめる会」の取り組み:

①前川さんの講演会記録作成(3 月中に発行予定)
印刷部数:300 部　頒布価格:300 円

②情報公開再請求

12 月 7 日(月)情報公開再請求したが、最初の請求とまったく同じ情報しか開示されなかった。「知恵の樹」№251 に掲載。再々請求についての報告は同 No.252 に掲載。本号巻頭言参照。

③鶴川駅前図書館への指定管理導入スケジュール
2021 年 3 月議会で条例改正、4 月に事業者公募、8～9 月候補者選定、2022 年 3 月協定書締結、4 月から実施)。3 月議会に向けた取り組み。

4. DVD「疎開した 40 万冊の図書」の貸出しについて
→継続

5.「公立図書館を市民参画によって支えるためのワークショップ」企画案について

今後の財政難を理由に市が公立図書館の「再編」を進めようとする中で、市民の共有財産である公立図書館を市民参画によって維持していくための方策を検討する。4 月 29 日(木・祝)午後⇒同日午後 2 時～ 鶴川市民センター

報告

1. 図書館主催「疎開した 40 万冊の図書」上映会の報告

2 月 19(金)実施。「知恵の樹」本号に報告掲載。

2. 団体及び個人からの報告

嘱託員労組:2/25 図書館独自要求について団体交渉、「誠実な対応を行う」の繰り返し。2/25 異動内示。

学校図書館を考える会:オンライン交流会(小・中学校図書館関係者の情報交換)、3/27 に実施予定。

守谷:4/17(土)午後、町田の歴史と文化を考える会講演会

≪編集後記≫2021 年度当初予算の図書購入費は、市民一人当たりたったの 77 円。図書購入費 33,162 千円を 3 月 1 日現在の人口 429,065 人で除した。こんなに低い図書購入費なら、利用が減るのは当然だ(T²)